

第3WG 評価コメント

評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

事業番号3-20 競争的資金(先端研究)【予算】【制度】

科学技術振興調整費(革新的技術推進費、先端融合領域イノベーション創出拠点の形成)

科学研究費補助金(特別推進研究、特定領域研究、新学術領域研究、基盤研究(S))

戦略的創造研究推進事業

戦略的イノベーション創出推進事業

先端的低炭素化技術開発

戦略的基礎科学研究強化プログラム

(競争的資金(先端的研究)【予算】)

額よりも制度の見直しがより重要

重複の見直し分の確保を前提として予算の縮小を行うべき。

とにかくまず整理すべき

競争的資金の出し手である日本学術振興会と科学技術振興機構の経費および受け手である大学等の間接経費は、ぎりぎりまで縮減してもよい。しかし、真水部分である研究者が受け取る直接研究費が縮減されると科学技術力の低下へつながる。

1年かけて今の支援のあり方を省庁の枠をこえて抜本見直しを行い、新しい予算編成に反映するべき

決まった教授ルートにしか資金が流れるようなことはないか。精査し、さらに充実すべき。

制度の簡素化によるコスト削減は必要。

制度を合理化すればより少ない金額で同じ効果を得られる。

若手、新分野の研究者により広く配分することにも力を入れるべき。

(競争的資金(先端的研究)【制度】)

科研費による基礎科学研究()を産業技術()(経済産業省等)へつなぐには、リスクの大きい科学技術応用研究()を經由することが避けられない。に大別することが望まれるので、少なくとも文部科学省内では整理統合が必要である。

基礎と応用研究の棲み分け、連なる内容を一本化し、他省庁の資金とあわせ統合メニュー付を考える。

文部科学省内、他省庁での乱立は、相当無駄の温床となっている。統合して手法成果のレビューを行うべき。

科研費とそれ以外に整理し、とにかく一本化。

資金の一元化、各省乱立の体制を統合する。バラバラな競争的資金提供体制の中で、過剰に一研究者に対し偏るような体制を改め、無駄を排除する。

重複を排し、それぞれの研究対象ごとに適正な額の支援が無効に改善。申請手続の不統一、複雑さが天下りを招き入れる原因という話もある。この見直しが必要。

一元化がいいかは別だが、数を少なくし、制度をシンプルにする必要。

国民からみてメニュー全体が他省庁を含めシンプルになるよう設計すべき。

資金間の競争は必要だが、競争的資金が47とは多すぎる。

政策レベルでの詳論が必要。

先端研究を文部科学省のみに限らず、国としてどのようなポートフォリオを持つべきなのか、政治主導で決めるべき。

重複に関する見直しを、政府レベルから行うべきと考える。

WGの評価結果

競争的資金(先端研究)

**一元化も含めシンプル化
予算は整理して縮減**

【制度】(資金の一元化8名、重複の排除・制度のシンプル化4名、その他1名)

【予算】(予算計上見送り3名、予算要求の縮減5名(a半額1名、b1/3縮減1名、その他3名))、予算要求通り5人

とりまとめコメント

競争的資金(先端研究)の予算については、来年度の予算計上の見送りが3名、予算要求の縮減が5名、予算要求通りが5名であった。ただし、予算要求通りとしたメンバーも、若手研究者への資金配分にも力を入れてほしい、コスト削減が必要とのコメントを付しており、全体としては予算要求の縮減の声が大きいと思われる。このため、競争的資金については整理して縮減することが求められているという形でまとめたい。

また、競争的資金(先端研究)の制度については、資金の一元化の推進が8名、重複の排除・制度のシンプル化が4名であった。このため、一元化を含め、制度をシンプル化し、使い勝手の良いものにしていただきたい。